

遺伝子組み換え学ぶ

高校生、徳大で講習会

高校生が実験を通して遺伝子組み換えを学ぶ講習会が29日、2日間の日程で徳島市内の徳島大学蔵本キャンパスの疾患ゲノム研究センターで始まった。

城東、徳島北、新野、



遺伝子組み換えの実験を行う高校生＝徳島大学疾患ゲノム研究センター

海部、川島、辻、池田の7高校から21人が参加。生徒たちは、高浜洋介センター長(50)から遺伝子組み換えの基礎について講義を受けた後、実験を

開始。オワンクラゲの蛍光タンパク質をつくる遺伝子を大腸菌に移植し、一晩培養し、30日に発光の様子を観察する。髪の毛を使ってヒトのDNAパターンを解析し、個人識別する実験もあった。

川島高2年の竹内瑠璃子さん(17)「吉野川市鴨島町牛島IIは「最先端の遺伝子研究に触れられて満足」と喜んでいました。講習会は文部科学省の

サイエンス・パートナーシップ・プログラムの一環で、2005年から毎年開かれている。